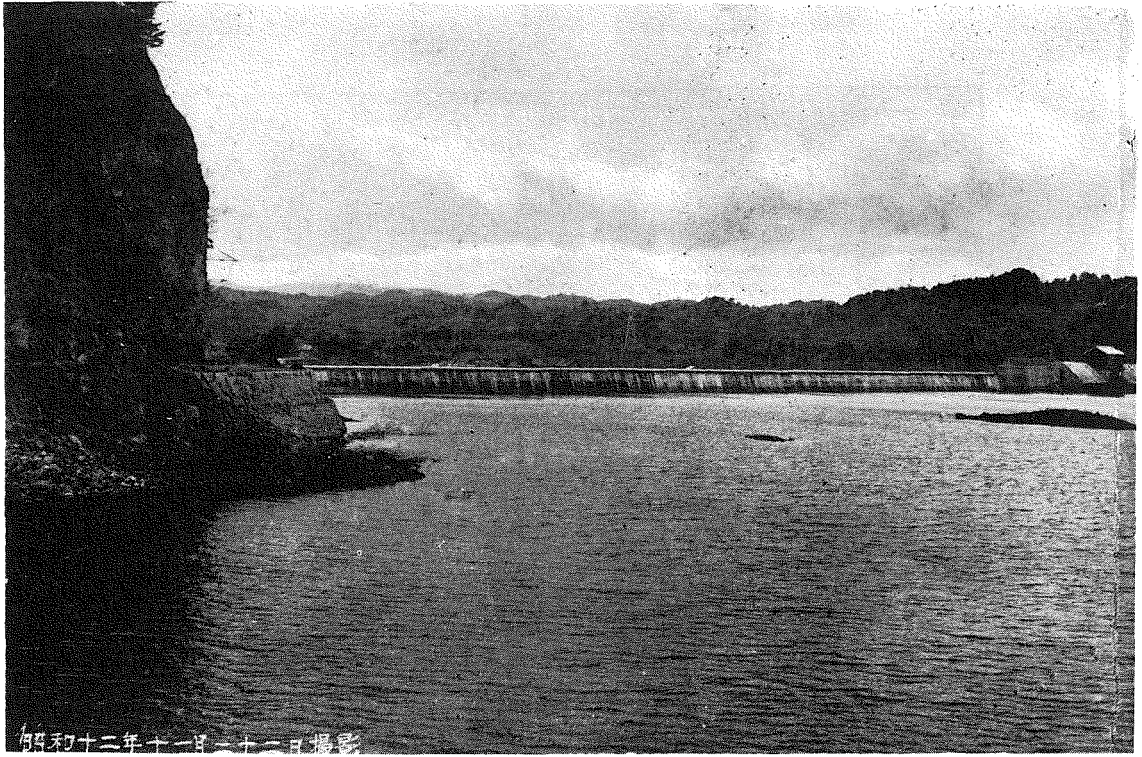
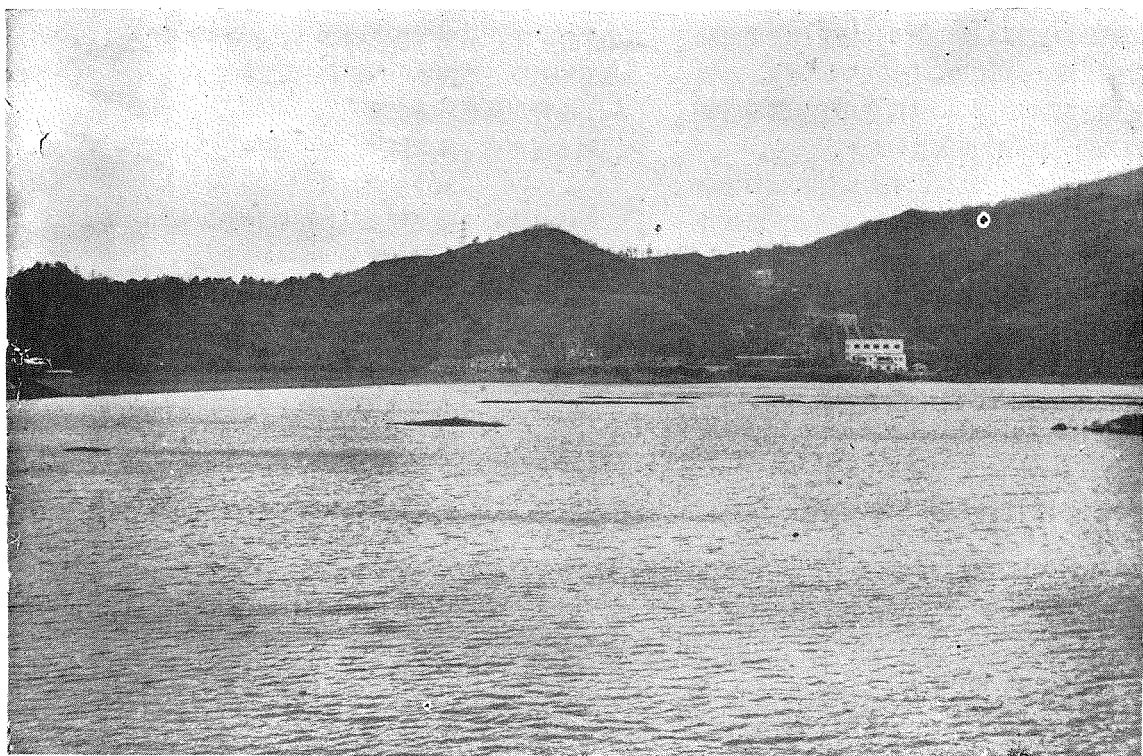


小野川發電所附近平面圖



1. 秋元湖を隔て小野川発電所を望む



(右方の白き建物が発電所、左方に見ゆるは秋元湖堰堤)

濟の爲めの道路工事に依り、猪苗代檜原湖間には幅6米の林道工事（現在では縣道）が完成して、昭和10年には猪苗代川上（營林署製材所）間の軌道は撤去された。

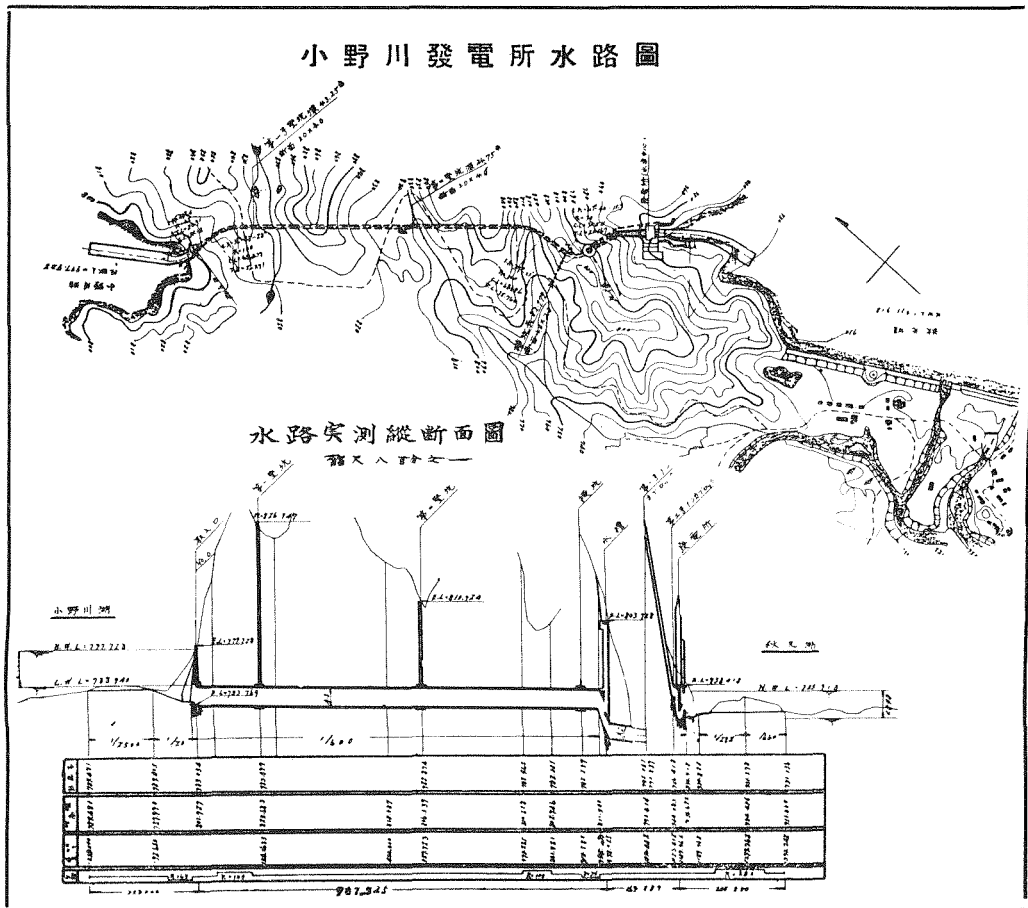
省線川桁驛から沼尻に至る區間には日本硫黄會社の耶麻軌道が布設されて居る。此の中間の樋の口驛から長瀬川左岸に沿ふて馬車を通ずる程度の幅2米位の道路がある。三湖増漕工事は此の道路に依つて物資輸送を爲されたのである。

耶麻軌道は大正2年5月11日運轉開始を爲し、亘長15.6軒、軌間2呎6吋、軌道曲線最

小半徑30米、最急勾配25分の1、軌條45封度乃至40封度、汽關車6.9廔車三臺である。

4. 小野川發電計畫概要

取水河川名	阿賀野川水系長瀬川筋小野川湖
取水口位置	福島縣耶麻郡檜原村字青木口 1,083番
發電所位置	同縣同郡同村字寺澤山 1,076番の1
使用水量	最大50.09立米 平均 8.32立米
有効落差	最大使用水量の場合 60.93米



(60.92米)

理論馬力 最大40,166馬力(同上)
平均 6,982馬力(同上)

理論水力 最大 29,904「キロワット」
(同上)
平均 5,196「キロワット」
(同上)

發電力 最大 26,000「キロワット」
(同上)
平均 4,580「キロワット」
(4,500)

但し上表中の數字は水利使用實施認可に依るもので()内は電氣事業法の施行認可のもの。

5. 水路工事設計概要

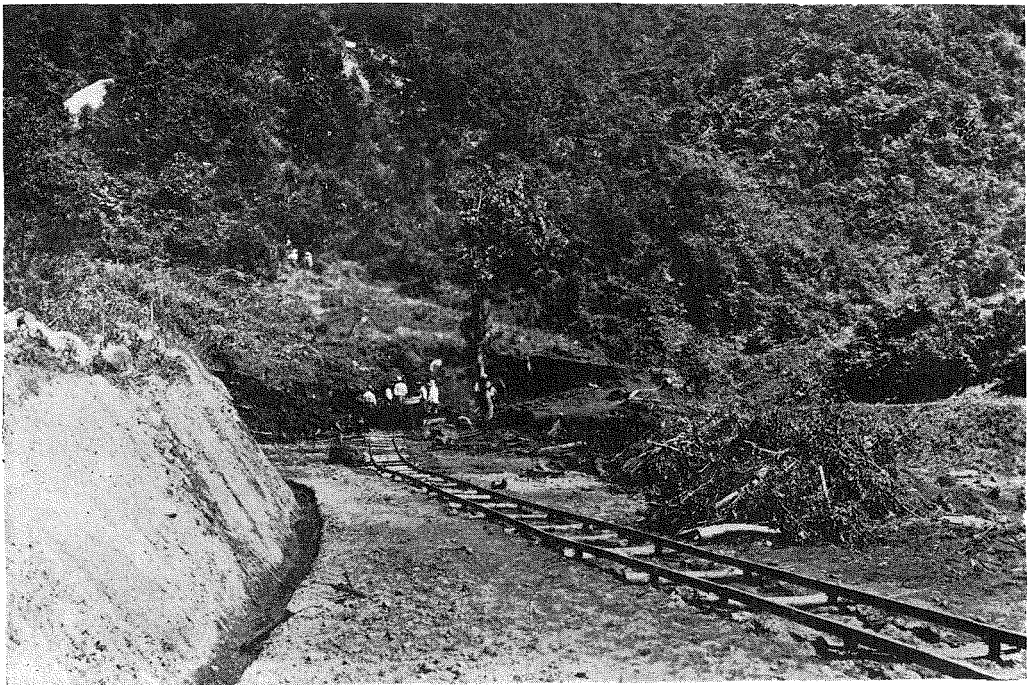
(イ) 取水口 鐵筋コンクリート造、入口幅8.4米入口水深 13.959米
總延長28.0米

水門 高さ 4.5米 二門
門扉 高さ 4.7米 幅3.578米
鋼製 二連

捲揚機 電動式 二臺
電動機 廻轉數 1,000 10・0馬力
塵除裝置 徑間幅 3.7米 二連
高さ下段6.75米
上段6.75米 鋼製固定式

(ロ) 水路 總延長945.995米
隧道 有壓式鐵筋コンクリート造
圓形内徑4.5米、卷厚50釐

2. 工事以前の鐵管路遠望。(中央上部山腹の白き場所は1號大支臺附近、前景は發電所に至る道路工事) (11.7.1)



	40種、30種		内法高2.0米卷厚25種乃至30種、延長99.251米
(ハ) 水 槽	圓筒形鐵筋コンクリート造 内徑12米乃至12.4米内法高 32.478米	暗 渠	鐵筋コンクリート造圓形内 徑2米卷厚25種乃至30種、 延長97.346米
水 門	圓形内徑3.2米 二連	(ホ) 水壓管路	中心線延長151.381米
門 扉	鋼製バターフライバルブ 二個	水 壓 管	内徑上部3.2米下部3.0米鐵 板厚9耗乃至17耗管種上半 部(隧道部)電氣銲接鋼管其 他銲接鋼管 列數2條
捲揚機	油壓式 二臺	(ヘ) 放水路	延長263.48米
土砂吐水門	内法幅1.5米高1.5米 一連	開 渠	最小敷幅20米最大敷幅32米 兩側法勾配1割5分掘放し 但し發電所附近護岸延長右 岸60.5米左岸38.5米床固め
門 扉	鋼製スルースゲート一個		
捲揚機	電動式 一臺		
電動機	5.0馬力廻轉數1,000 一臺		
(ニ) 餘水路	總延長196.597米		
隧 道	コンクリート造馬蹄形内法 幅2.0米		

3. 水路隧道第2號豎坑エレベーター、タワー。(11.8.13)

